

NPO エコライフはままつの皆さまへ

～お礼とご報告～

はじめまして。青年海外協力隊の北愛子と申します。私はマラウイの南部マチンガ県にあるマチンガ教師研修センターという施設で活動をしており、近隣の小学校を巡回しながら表現芸術のアドバイザーとして働いています。この度はわたし達の学校へピアノ・アルトリコーダーをご寄贈頂き誠にありがとうございました。2015年12月3日に無事楽器が到着しました。メイン校の先生、生徒ともにとっても喜んでおります。今回は私の住んでいる地域の紹介も含め、そのご報告をさせて頂きたいと思います。

<マチンガ県マチンガタウンの紹介>



左はマラウイの地図です。

赤く色がぬられている所が私の住むマチンガ県で、このマチンガ県の中心、マチンガ town に私の職場があります。

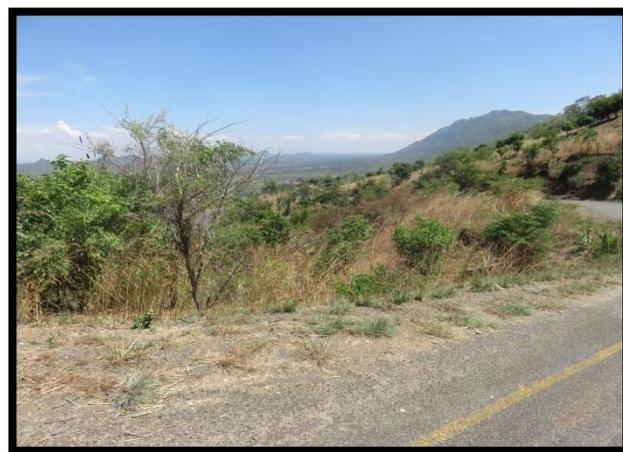
マチンガ town は人口 1300 人ほどのごく小さな都市です。(2006 年の統計) 丘の上に位置しており、周辺地域と比べると比較的涼しく過ごしやすい気温です。

また、マラウイの中では比較的イスラム教徒が多い地域でもあります。私のマチンガに対する第一印象は「静かで穏やかなところ」でした。人々は他の地域に比べると少しシャイですが、優しい人が多いように感じます。

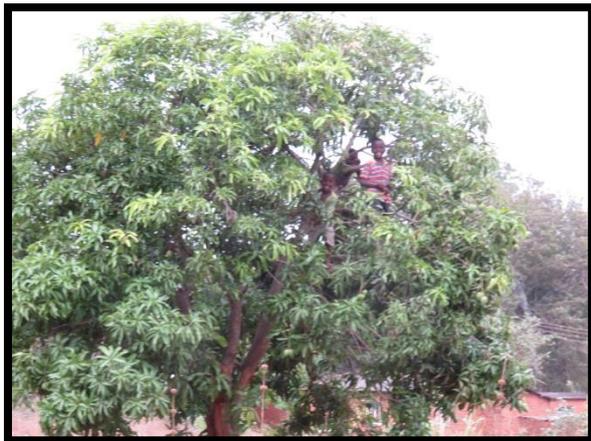
丘に囲まれ、景観も良いマチンガ。こどもたちものびのびと遊んでいます。



マチンガタウンの中心地



マチンガの景観



木に登りマンゴーを採る子ども達



畑手伝いの合間に

<贈呈した管轄小学校の紹介>

今回寄贈いただきました楽器は配属先のマチンガ教師研修センターと話し合いの上、管轄校のひとつである「マチンガ小学校」に贈呈させていただきました。

私の配属先である「マチンガ教師研修センター」は、11校の小学校を管轄しており教員の指導等を実施する機関です。その中のモデル校にあたるのがマチンガ小学校で、教師研修センターに隣接しています。

まずはモデル校で楽器の普及を徹底させようということで今回マチンガ小学校に楽器を贈呈することに決めました。

マラウイの小学校は第1学年～第8学年まであります。マチンガ小学校は全校生徒1274名。それに対し教員は17名のため、単純計算すると1人70人以上もの生徒を受け持っていることとなります。クラスによっては100人以上のクラスもあります。

これはマチンガ小学校だけの問題ではありませんが生徒のドロップアウト率が高いのが深刻な問題です。配属先からは今回寄贈していただいたピアノやリコーダーにより、生徒が学校に通うのを楽しみにすることで、生徒のドロップアウト率も抑えられるのではないかと期待されています。



マチンガ小学校校舎



クイズ大会の様子



タイヤを叩く音がチャイムの代わり



短距離走の練習



1年生のクラス

<楽器贈呈に際して>

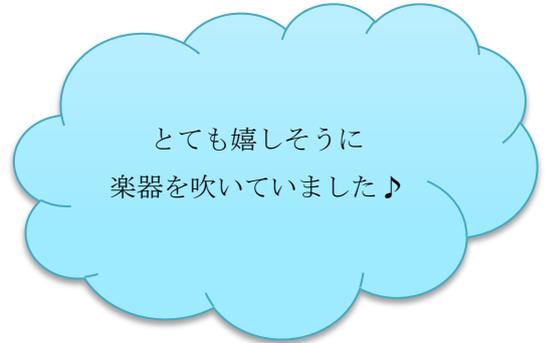
楽器が到着した日にマチンガ小学校の教頭先生、教師研修センターの職員、マチンガ小学校 Expressive Arts Club の生徒たちとミニセレモニーを行いました。セレモニーでは、楽器の音だし、記念撮影、そして感謝の意を込めて日本の童謡「ふるさと」を演奏しました。今までは私が日本から持ってきた1台の鍵盤ハーモニカを何人かで使い回しながら練習していたので、子どもたちはたくさんの楽器に大興奮。楽器を見た瞬間は歓声があがったほどでした。



1つの鍵盤ハーモニカを使い回し

思い思いに音を出す子ども達。





とても嬉しそうに
楽器を吹いていました♪

「ふるさと」はまだ、練習途中で最後まで吹くことはできていませんが、ご寄贈いただいた鍵盤ハーモニカを使い日々練習を続けております。リコーダーにもみんな興味津々で、鍵盤ハーモニカがある程度ふけるようになったら練習を開始する予定です。

<音楽教育の現状と楽器の活用法に関して>

マラウイの公立小学校では **Expressive Arts** という科目が設けられています。

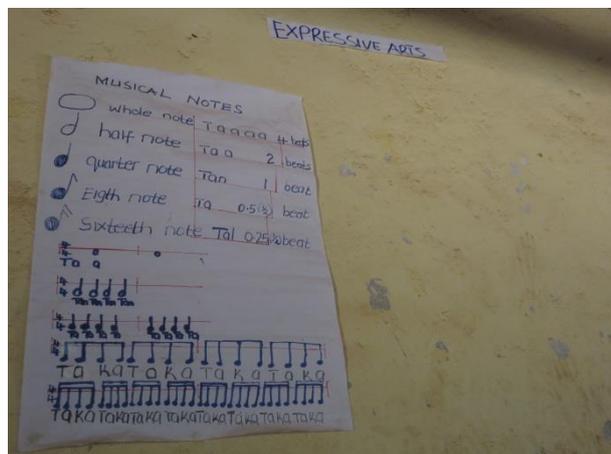
Expressive Arts とは図工、体育、裁縫、ダンスなどが統合された科目で、その中に音楽も組み込まれています。しかしこの科目、先生達にとっても指導するのが困難な科目なようで授業自体が行われないうことがしばしば起こっています。中でも、教員たちが口を揃えて指導法が分からないというのが音楽。五線譜の読み方がわからない、という教員がほとんどです。

つまり、学校での音楽の授業はされていないに等しい、というのが現状です。

右は、現地の教員が作成した音価
についての教材。

少し間違いが見受けられます…。

そこで今回ご寄贈頂いた楽器を通して教



員、生徒ともにもっと音楽に親しんでもらい、最終的には現地の教員が生徒に楽器指導ができるようになることを目標に活動を進めていきたいと考えております。現に、今まで音楽を学ぶことを敬遠していた教員も楽器に興味を持ち始めており、楽器が音楽を学ぶモチベーションになりうるのではないかと思います。これからは、モデル校を中心に教員対象トレーニングを行っていこうと計画中です。



以前行った教員対象ワークショップの様子。音価、リズム創作について。

また、CLUB活動での楽器指導も進めています。まずは鍵盤ハーモニカの「ド」の位置を覚えるところから。まだまだ道のりは長いですが、休憩時間の間も生徒たちは黙々と自主練習をしていました。

生徒たちの今の目標は「ふるさと」を弾けるようになることのようにです。時間が空くと「アイコ、うさぎ（ふるさと）を教えて！」と私のところにやってきます。

音楽以外にも、「目標に向かって何かを練習する」という習慣を、楽器を通して学ぶことができれば、と考えております。



CLUBにて鍵盤ハーモニカを自主練習中の子ども達

今回楽器を寄贈して頂いた事で、生徒の喜ぶ顔が見られたこと、また、生徒や教員の音楽に対する興味やモチベーションが上がったこと。とても感謝しております。

今までマラウイで日常的に見られる楽器といえばローカルドラムだけでしたが、自由にメロディを奏でられる鍵盤ハーモニカやリコーダーは、彼らに新しい経験や可能性を与えてくれるのではないかと予測しております。

私自身も子どもが学校で音楽の授業が受けられるよう、子どもに様々な経験を提供できるよう、微力を尽くしていきたいと思っております。今回のこと、本当に感謝しています。ありがとうございました。

《報告者》
青年海外協力隊
26年度2次隊
青少年活動
マラウイ
北 愛子